３修辞と鑑賞

Ａ　おり立ちての寒さを驚きぬ

　　　　露しとしとと柿の落ち葉深く 伊藤

Ｂ　のど赤ふたにゐて

　　　　たらちねの母は死にたまふなり 斎藤

Ｃ　湧きいづる泉の水の盛りあがり

　　　　くづるとすれやなほ盛りあがる

Ｄ　楽章の絶えし那の明るさよ

　　　　ふるさとは春のなるべし あき子

Ｅ　赤い白い椿と落ちにけり

Ｆ　やびりりびりりと

Ｇ　ままごとのもさいもかな 星野

Ｈ　炎天の遠き帆やわがこころの帆 山口

＊語注

＊玄鳥…ツバメの古名。

＊屋梁…柱の上に渡した、建物の骨組みとなる水平材。

＊刹那…瞬間。

＊玻璃…ガラス。

＊おさい…「御菜」。おかず。

問１　が使われている短歌を一つ、記号で答えよ。

（　　　）

問２　Ａの短歌は連用止めで季節の推移を詠んでいるが、その季節はいつか。漢字一字で答えよ。

〔　　　〕

問３　次の項目に該当する短歌・俳句をＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

①　三句切れの短歌　　＝（　　　）（　　　）

②　句切れのない俳句　＝（　　　）（　　　）

③　字余りの短歌・俳句＝（　　　）（　　　）（　　　）（　　　）

問４　Ｄの短歌と同じ季節の俳句をＥ～Ｈの記号で答えよ。

（　　　）（　　　）

問５　Ｅ～Ｈの俳句から切れ字をそれぞれ一つずつ抜き出して答えよ。

Ｅ＝（　　　　）　　Ｆ＝（　　　　）

Ｇ＝（　　　　）　　Ｈ＝（　　　　）

問６　次の鑑賞文に該当する短歌・俳句をＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

①　すさまじい音と、深夜の不安を感じさせる。 （　　　）

②　自然の動きに覚える感動を一点に集中して歌う。 （　　　）

③　対照的な色彩の中に生命の動きをとらえる。 （　　　）

④　はるかかなたを見やりながら、思いを遠くにかける。 （　　　）

⑤　遊ぶ子供たちをやさしく見つめる。 （　　　）

⑥　写生を基調としながら、悲しみを荘重に歌いあげる。 （　　　）

⑦　いきいきとしたイメージの広がりで充足感を詠む。 （　　　）

【解答】

問１　Ｂ

問２　秋

問３　①Ａ・Ｄ　②Ｅ・Ｇ　③Ａ・Ｂ・Ｄ・Ｅ

問４　Ｅ・Ｇ

問５　Ｅ＝けり　Ｆ＝や　Ｇ＝かな　Ｈ＝や

問６　①＝Ｆ　②＝Ｃ　③＝Ｅ　④＝Ｈ

　　　⑤＝Ｇ　⑥＝Ｂ　⑦＝Ｄ

ポイント

問１　Ｂ「たらちねの」が「母」にかかる枕詞。

問２　「露」も「柿」も秋のもの。

問３　①Ｂ・Ｃは句切れなし。

　　　②Ｆ「寒雷や」、Ｈ「遠き帆や」の「や」が切れ字で句切れあり。

問５　「切れ字」は詠嘆を表しつつ、そこで句切れとなる語。「や」「かな」「けり」などがある。